

特集「組織における情報システム開発」の 編集にあたって

樋地 正 浩^{†1}

情報化社会の進展にともない、さまざまな情報システムが構築、運用され、社会における情報システムの重要性はますます増加している。それにもかかわらず、理工系学会論文誌で実際の組織における情報システムを取り扱った論文の採択は非常に少ない。情報システムが社会生活、組織活動のすみずみに浸透し、効率性、高信頼性が求められる中、これらの社会からの要請に応えることは、学术界にとり、重要なことである。このような背景から、「情報システムと社会環境」研究会（以下、IS研究会と略記）では、情報システム分野の研究成果の公開方法について議論を重ね、2005年3月に初めて情報システム論文の特集号を実現した。それ以降、毎年、情報システム関連の論文誌特集号を企画し、この分野を代表する10編程度の論文を一括掲載してきた。このことは、情報システム論文の定着化に向けた大きな前進である。その一方、特集号の採択率が30%程度と低迷しており、普及啓蒙による投稿論文の質の向上が求められている。これに対し、IS研究会では、情報システム論文の意義や書き方を理解し、投稿論文の質を高めてもらうために、「論文執筆に関するワークショップ」を2006年度から年数回のペースで開催し、採択率向上に向けた取り組みを継続的に行っている。さらに多種多様な情報システム論文を広くカバーするため、今後もさまざまな視点から特集号を企画していく予定である。

本特集号では、このような状況をふまえ、これまでの特集号で対象としてきた情報システムの分析・設計・開発・運用などの理論と実践、情報システムと人間・組織・社会との相互関連に加え、さまざまな組織における情報化ニーズをとらえた新しい情報システムの提案を重視し、実際の組織における情報システムを扱った論文を広く募集することとした。

投稿された論文は、これまで取り上げられることが多かった企業・大学だけでなく保育・

産地直売所・医療機関といったさまざまな組織で利用される情報システムからそれらが社会活動に与える影響まで広範囲にわたっていた。さらに、情報システムの分析・設計・開発・運用の手法やモデル化の手法の研究まで多岐にわたる。投稿論文数は21件あり、その中で採択された論文は8件で、採択率は約40%であった。採択された論文は、これまで取り上げられることが少なかった保育分野、知識コミュニティ分野3編、情報システム構築のモデル化手法とその定着化5編であり、新しい情報システムの利用法や利用分野を開拓できただけでなく、情報システムの構築から運用まで幅広い論文を掲載できたと考えている。その一方、日本語の推敲不足（誤字・脱字や日本語として意味の不明な文）の論文が散見されたことは、残念であり、採択率低下の大きな要因でもある。情報システム構築では、顧客、開発者の双方が構築する情報システムの内容を正確に分かりやすく相手に伝えることが不可欠であり、そのためにも誤解のない文章や説明が重要になる。この観点から、研究成果を分かりやすく伝える記述と十分な推敲を行い、論文として成果をまとめていただきたい。

最後に本特集号の機会を与えてくれた論文誌編集委員会と短い査読期間のなかで迅速かつ丁寧、公平な査読をしていただいた特集号編集委員、査読者各位、スケジュール管理を含めさまざまな支援をしていただいた学会担当者に深謝いたします。

「組織における情報システム開発」特集号編集委員会

- 編集長
樋地正浩（日立東日本ソリューションズ）
- 編集委員（五十音順）
浅井達雄（長岡技科大）、阿部昭博（岩手県立大）、市川照久（静岡大）、
魚田勝臣（専修大）、大場みち子（日立）、金田重郎（同志社大）、
神沼靖子（本学会フェロー）、亀田能成（筑波大）、刀川 眞（室蘭工業大）、
辻 秀一（東海大）、富澤真樹（前橋工科大）、南波幸雄（産業技術大学院大学）、
畑山満則（京大）、弓場敏嗣（本学会フェロー）

^{†1} 株式会社日立東日本ソリューションズ
Hitachi East Japan Solutions, Ltd.